

氏名	小 幡 明 儀
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1616 号
学位授与の日付	昭和60年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	Ultrasound Estimation of Myometrial Invasion of Endometrial Cancer by Intrauterine Radial Scanning 子宮腔内ラジアルスキャンによる子宮体癌の筋層内浸潤度の判定について
論文審査委員	教授 青野 要 教授 赤木忠厚 教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

近年、我が国においても欧米諸国のように子宮癌の中で子宮体癌の占める割合が増加しつつある。ところで子宮体癌の子宮筋層内浸潤の程度は癌の広がりおよび予後に強い相関があるといわれている。そこで子宮体癌症例における癌の筋層内浸潤度の判定を術前に予測する目的に対する超音波の有用性を検討した。超音波手法は子宮腔内に小さい振動子を挿入して行なう子宮腔内ラジアルスキャン超音波断層法である。得られたエコーパターンより筋層内浸潤の程度を以下の4つのグループに分けて推測した。

- 1) 筋層内浸潤のないもの
- 2) 筋層内浸潤が1/3以下の浅いもの
- 3) 1/3～2/3の中等度のもの
- 4) 2/3以上の深いもの

子宮摘出術により得られた摘出標本から組織学的に癌の筋層内浸潤度を超音波検査同様に4グループに分けて判定した。両者の結果を比較検討したところ次の結果が得られた。組織学的検査結果と超音波による体癌筋層内浸潤判定結果が32例中26例（81.3%）において一致した。一致しなかった6例においては、子宮腔内ラジアルスキャン断層法による癌浸潤度の方が、組織学的検査によるそれよりも、全例において低い結果を示した。

underestimateの原因としては子宮腔内に挿入した振動子がプローブの先端より10mm手前に中心が位置しているため子宮底部の断層像は得られないためと、エコーパターン判読の誤りが考えられた。しかしながら、正診率81.3%は、子宮腔内ラジアルスキャン

超音波断層法が臨床上充分実用性の高い手法であることを示すと考えられる。
なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

子宮体癌の子宮筋層内浸潤の程度は癌の拡がり及び予後に強い相関があると云われているが、此の判定を術前に予測する目的の為に子宮腔内ラジアルスキャンを用いて32例について検討を加えた。その結果81.3%において組織学的検査結果とラジアルスキャンによる体癌筋層内浸潤判定結果が一致した。此の検査法は体外計測法に比べてはるかに有意であり特に Myometrial Invasion を評価するに当っては格別の方法であろうと考えられる。したがって此の論文は充分博士号を得るに足るものと考えられる。